

令和7年度ながおかヘルシープラン 21 策定・推進協議会意見一覧

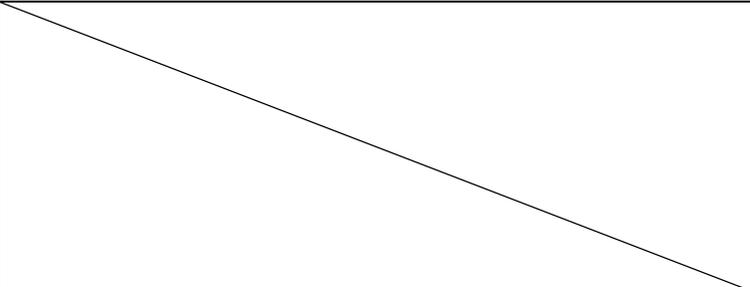
資料1

【委員】

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 所属団体での青壮年期の健康づくりに関する取組内容や課題について
1	長岡歯科医師会	<p>来年度より、フッ素洗口が未実施であった中学校2校でも実施することになり、当初の目標であった公立園、小中学校の100%で実施できるようになった。</p> <p>フッ素洗口によりウ蝕罹患者の著明な減少がみられているが、歯肉炎罹患者の減少をさらに促すため、いっそうの歯科衛生指導に力を入れる必要があると思われる。</p>	<p>青壮年の歯周病健診の受診率が低い。</p> <p>全体では13%強であるが、20歳では一桁となっている。</p> <p>大学生で他の地域に居住している者が多いのも理由と考えられる。</p> <p>帰省に合わせて受診を勧める方策等が必要と思われる。</p>
2	長岡市薬剤師会	事前配布資料記載のとおり	
3	新潟県学校保健会 会長岡支部	<p><学童・思春期> (メディア使用について)</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやインターネット等のメディアが生活する上で必需品になっている。児童生徒には、使用することによる、メリット、デメリットを理解し、より良くメディアを使用できる力を身に付けてほしいと思う。 <p>(保健指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の改善、歯科保健、薬物乱用防止、メディア使用等、専門家から指導をいただくことで、児童生徒は理解しやすく、正しい知識を得ることができている。今後も専門家からの保健指導が継続できるよう、各団体から支援をいただきたい。 	<p><取組内容> 講演会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 長岡市にあるフリースクールの代表者を講師に招き、不登校児童生徒・保護者への支援やフリースクールと学校との連携等について学んだ。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 心の健康問題や SNS 等メディア使用による問題(トラブル、心身の不調、生活習慣の乱れ等)等、課題は多い。

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 所属団体での青壮年期の健康づくりに関する取組内容や課題について
4	長岡商工会議所	/	<p>・今年度は企業に対し「健康経営」に取り組むためのきっかけや、「健康経営」の認知度向上に向けたセミナーを2回開催した。</p> <p>7/18(金)「健康経営の基礎を学ぶ」 講師:アクサ生命保険(株)健康経営エキスパートアドバイザー 田中 義郎 氏</p> <p>11/25(火)「中小企業の健康経営を学ぶ」 第1部:”それならできそう！私の会社の健康経営” 講師:まちの保健室 K-Create 代表 片野 英明 氏</p> <p>第2部:自社の健康経営の取組み コーディネーター:まちの保健室 K-Create 代表 片野 英明 氏 パネリスト : (株)丸共 代表取締役 金内 宏彰 氏 (株)プランビー 代表取締役 井利元 聖史 氏</p> <p>・当所、青年部の事業</p> <p>①7/4(金)健康なカラダで人生を紡ぐ オトナの健康促進プロジェクト 2025 ・健康講話 まちの保健室 K-Create 代表 片野 英明 氏 ・フィジーク体験記 ～驚愕の体脂肪 0%！フィジーク大会入賞経験者による体脂肪一桁に迫る食習慣～ ・各月 2～3 回 自由参加のトレーニング、ウォーキング ・体を動かすアクティビティ</p> <p>②10/26(日)デジタルデトックスプロジェクト～日帰り健康合宿～ ・よもやま館を会場に、曹洞宗 慶覚寺 住職 春龍氏より座禅体験、健康食を 実食した他、ヨガトレーナーのゆりえ・ガーヴィー氏よりヨガ指導を受けた。</p>
5	長岡市社会福祉協議会	<p>当会では、福祉担当コミュニティセンター主事を対象に、研修会や情報交換会を開催している。今年10月には、市健康増進課による「ゲートキーパー研修」を実施した。研修内容の「ゲートキーパーの基本」や「味方になりきるコミュニケーション」は大変有意義であり、今後も継続していただきたいと考えている。</p>	<p>当会では、ボランティア講座などを開催し、地域福祉の担い手の養成に努めている。しかし、青壮年期の働く世代の参加は限られているため、今後も幅広い啓発活動を進めていきたいと考えている。</p> <p>また、職員を対象としたメンタルヘルス研修会などを通じて、職員の健康づくりにも取り組んでいる。</p>

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 所属団体での青壮年期の健康づくりに関する取組内容や課題について
6	新潟県栄養士会 長岡支部	概ね、良好と考えられる。 引き続き、健診の実施と相談状況を「見える化」し、自己啓発と支援していくことが必要と考える。 また、高齢者女性の低栄養や女性の飲酒喫煙の原因を究明し、支援していくことが必要と考える。	青年期においては、概ね良好なので、引き続き生活習慣病予防と運動行動へのアプローチが必要と考える。 壮年期においては多忙の状況下での自己への健康を気遣う心構えと行動ができるような職場のシステム体制づくりを支援していくことが大切だと考える。 また、女性の飲酒喫煙の原因を知るための聞き取りなども必要と考える。
7	長岡市スポーツ協会		・地域、企業へスポーツインストラクター(スポーツ指導員)を派遣又は加盟団体と連携して大人向けのスポーツ教室等を実施している。(主催事業、共催事業) ・課題はコミセン等より身近な場所での運動・スポーツ機会のさらなる充実のための関係団体(コミセン、スポーツ推進委員、地域スポーツ協会など)との連携。
8	長岡市食生活改善推進委員協議会	・JAえちご中越様と一緒に「ワンジャふる ファミリークッキング」を12月に開催予定 食推:白いご飯にあう郷土料理を提案 ・10月にInstagramを開設 ・「おかず手帳2」 着々と進行中:予定より早く完成予定	・学校にお願いして、食についての話しや料理教室などの講座をやりたいが、アプローチのやり方がわからない。できたとしても、その講座を行う費用が食推はない。 ・自分たちの団体だけでは無理なので、県や市の協力が必要。 ・JAえちご中越様主催のイベントでブースをいただき、「一日の野菜摂取目標量」のPRが出来たため、各年代の人に野菜を食べる事を提案できた。
9	長岡市母子保健推進員協議会	講座を開催しても参加者を確保することが難しくなっているが、各団体と協力することにより参加者を増やすことができるか？ →同様に課題と感じている関係者がいるため、日々の取組や、連絡会議でのつながりを生かし、ぜひ協働してけると良い。	赤ちゃん訪問の時に配布する資料の中に母親の食事についての資料と一緒に配布しているが、我が子の離乳食には一生懸命になりがちだが自身の食についてはあまり関心がないように思える。 昨年からは妊婦向けの講座を行っているが参加者が少ない。

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 所属団体での青壮年期の健康づくりに関する取組内容や課題について
10	長岡市老人クラブ連合会	<p>老人クラブ連合会の立場で資料 2 の関係個所(スポーツ振興課、健康増進課、福祉課、社会福祉協議会、長寿はつらつ課)を拝見した。</p> <p>老人クラブの活動ではグラウンドゴルフ、麻雀のような一部の競技を除き、女性の方が活発に活動して元気。同時にイベントに参加される方はほぼ決まっている。男女ともやる人は様々なことをやり、やらない人はまったくやらない。これは関係個所の課題に一致している。</p> <p>参加しない方は一人が好きな人も居るが、誰かに誘われることを待っている人も多い様である。(特に高齢の男性は。)その方に声をかけられるのは友人、隣近所の人であり、高齢になるほど遠い友人と会うことが難しく、結局隣近所の仲間の誘いが一番効果ありそうである。老人クラブは隣近所の仲間の集まりであり、高齢者にとって重要な組織のため、今後同じ町内、近所の高齢者同士のネットワークとして会員を増やしていきたい。</p>	<p>長岡市老人クラブ連合会として青壮年期への健康づくりに関する取り組み、課題はない。</p> <p>青壮年期から個人の好きな趣味や運動のサークルに参加し活動することが高齢者になっても生きがいになる。高齢者になったときに高齢者同士の集まりとして活動を継続できれば良いと思う。</p>
11	全国健康保険協会新潟支部		<p>協会けんぽ新潟支部では、脳血管疾患の発病を防ぐために、運輸業を中心に事業所及び加入者に、まずは日々血圧測定の習慣化について普及啓発等を行っている。そのような中、本年9月から新潟県、にいがた脳心センター、新潟県医師会・新潟大学大学院生活習慣病予防・健診医学講座等と連携して「にいがた STOP 高血圧プロジェクト」をスタートさせ、高血圧に関する治療・予防・普及啓発について広く県民に浸透させる取り組みを行っている。</p>

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 所属団体での青壮年期の健康づくりに関する取組内容や課題について
12	長岡地域振興局 健康福祉環境部 地域保健課	<p>県では、県民の健康寿命を延ばし、すべての世代が生き生きと暮らせる「健康立県」の実現を目指し、「健康にいがた21」「新潟県食育推進計画」「新潟県歯科保健医療計画」「新潟県がん対策推進計画」に基づく取組を進めている。これらの計画は昨年度の改定を経て、今年度から新たなステージへと展開している。</p> <p>今後はライフコースアプローチを踏まえ、栄養・運動など分野別の施策をさらに充実させるとともに、健康づくりを支える環境整備に注力していく。特に、市町村との協働は欠かせない要素であり、引き続き連携を深め、成果につながる取組を共に推進していきたいと考えている。</p>	<p>地域職域連携推進事業として、運輸業のうちタクシー業界をモデルとして健康づくりの支援を展開(R6～継続)</p> <p>1連携事業</p> <p>(1)タクシー業界への介入を通して健康経営の実施と自走支援のあり方と基盤づくりに向けた取組について協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡市内のタクシー事業所(1か所)の従業員の健診結果や事業所カルテを活用した健康教育等の実施 ・タクシー業界との意見交換会の開催 <p>(2)陸上貨物運送事業労働災害防止協会において経営者を対象に健康づくりに関する情報提供の実施</p> <p>(3)確認できたこと、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自走化に向けた基盤づくりを進めるためには、経営者が生活習慣病対策の目的や社会保障制度との関連性について理解を深めること、小規模事業所が加入する「協会けんぽ」制度の各種サービスを利活用するための支援(きっかけづくり)等が挙げられる。 <p>2地域・職域連携推進協議会</p> <p>地域の関係者とモデル事業所での取組を共有し、継続して実施可能な支援の在り方(役割分担等)を協議する。</p> <p>今年度のテーマは「働く世代の健康づくり～運輸業の実態を踏まえた展開～」として開催する。</p> <p>3目指す方向性</p> <p>これらの取組を通し市町村が課題としている青壮年期を対象とした施策展開への貢献を目指す。</p> <p>*連携事業には長岡市健康増進課にもご参画いただいている。</p>

【アドバイザー】

		1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想
13	丸田アドバイザー	<p>「進捗状況調査結果まとめ」は評価と課題を整理した上で、分かりやすくまとめられていると思う。</p> <p>また、今後の進捗管理にあたっては、地域別(支所別)の視点からの評価と課題整理を加えることを検討してもいいのではないかとと思われる。</p> <p>→今年度、連絡会議において支所地域のコミュニティセンター職員に加わってもらい、地域の現状や取組などを共有した。今後も支所地域の視点や課題について共有し、計画の評価につなげていきたい。</p>
14	太田アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣が全世代で増加している点は、長岡市の健康施策の成果として評価できると思う。どの年齢層もスポーツができる機会があるように、これからも進めてほしいと思った。 ・歯科対策を実施している団体も多いと思った。食や健康に関わる場所なので、進めてほしいと思う。 ・食育講演会ではフードロス、食品保存のコツなど今のニーズにあったキーワードで、参加者が多い(221人)結果が出ていたと思う。食費が高くなる中、健康的な食費節約法等の講演会は、求められていると思う。 ・児童館が多くて良いと思った。子どもの居場所は今求められている。スポーツができる場も含め、各地域に児童館があるように進めてほしいと思った。 ・若い世代が住みやすい場所として、スポーツや、子育て支援のアピールは大事だと思う。 ・一方で子どもの肥満、生活習慣病、特に糖尿病予防など、どのような対策がよいか、また考えていく必要があると思う。

【関係課】

		1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 健康づくりに関する効果的な取組や課題と感ずること
1	福祉課	<p>様々な事業において参加者の固定化や伸び悩みに課題があり、広く関心を持ってもらうため、他部門との連携や保護者・子どもを巻き込むなどの意見が出されており、当課の事業もどういった工夫ができるか検討していきたい。</p>	<p>健康寿命を理解した上で、自身の未来に向けて健康を考えた生活(食事、運動、睡眠 等)を習慣化し、最新の知見を踏まえた修正を加えながら継続していくことが大切だと思う。</p>
2	生活支援課	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な関係機関において、それぞれの役割に基づき様々な側面からの取組を進めており、素晴らしいと思う。 ・興味・関心のある人は、能動的に情報を取得し行動を起こすが、一方で、そうでない人には各関係機関が有益な情報を発信しても中々届かないと思われる。こうした無関心層に対し、情報を届け、行動変容を促すための取組を続けることが大切だと感じた。 	

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 健康づくりに関する効果的な取組や課題と感ずること
3	国保年金課	参加者の確保が課題となっている講座やイベント等が多い中、北部地域事務所や長岡地域振興局のように、企業に出向いての取組は安定した参加者の確保が可能のため、高い効果が見込めると思った。	
4	人権・男女共同参画課	分野「社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上」について、「相談内容が複雑化・多様化している面もあり、関係機関との連携が重要となる。」とあるが、当課が所管するウィルながおか相談業務においても、相談内容が複雑化・多様化に加え広域化しており、例年、関係機関と連携について確認や共有する会議を開催するなど、連携の強化に努めている。	自身に悩みがあっても、矮小化したり、相談することを躊躇する方もいる。困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が令和6年4月に施行され、さまざまな困難を抱える女性に対して、困難女性の発見や相談から自立支援までの包括的な支援の取組みを行っている。その一つとして、当事者が気軽に立ち寄って支援者と話したり、他の女性との交流等ができるような居場所づくりが相談のきっかけづくりに有効であり、支援機関に相談や支援を求めることができることを広く周知し、支援対象者の早期発見に繋いでいくことを行っている。
5	スポーツ振興課	(身体活動・運動分野) 「多世代に向けた健康づくり」「コミセンなど身近な地域で」といった共通の課題認識を持つことができた。一方で、部局横断的な取組みまで踏み込めていないため、課題解決として、プロジェクトチームを作って対応するなど、具体的な取組みが必要だと感じた。	(身体活動・運動分野) ・運動をしていない人に興味・関心を持ってもらう(運動を始めるきっかけづくり)ためには、スポーツ以外の分野と掛け合わせて実施することが必要だと思う。 (例)食のイベント会場に健康状態を計測するブースと私服のまま多世代で楽しめるポッチャやモルックなどのブースを設けて運動するきっかけづくりにする。 ・青壮年期の健康づくりについては、運動を継続する内発的動機付けが課題だと思う。内発的な動機付けは、人それぞれ異なるため、その人に刺さるアプローチを検討することが必要と思う。
6	学務課	女性のリスクを高める飲酒の割合が、男性より多く増加していることは、社会情勢に関係があるのか心配であると感じた。	青壮年期への働きかけが大切であることはわかるが、効果的な周知方法や実践方法は工夫が必要であると感じた。
7	学校教育課	飲酒、喫煙を含めた薬物乱用防止教育は各校の指導計画に基づき、実施されている。学校によっては実施後にお便りなどで、内容を発信しているところもある。	

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 健康づくりに関する効果的な取組や課題と感ずること
8	こども家庭センター	それぞれの機関が様々な取組みをしていると改めて感じた。集客や資源の提供など、それぞれの得意分野を活かしながら協働で取組みをしている事例が複数あり、とても参考になった。	様々な取組みを行っているが、青壮年期の生活習慣等が改善したという実感が現場にはなく、取組み方法を悩みながら実施しているのが現状。妊娠は、飲酒や喫煙を含め、分野に係る全ての生活習慣を見直す大きな転機となるため、その機会を活かしていかに動機づけができるのか、今後も検討を重ねながら取り組んでいきたいと思う。
9	都市政策課	都市政策課交通政策室の分野は、「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備」であり、具体的な施策としては、ノンステップバスの導入支援を行うこととしている。現在、順調に推移しており(R7.4長岡駅低床バス導入率:約86.9%)、車椅子利用者にとっても、できるだけ外出しやすい状況にするよう改善できていると思う。 ※R7年度は車椅子対応の便であることがわかるよう、基幹病院行の路線について、HP上の時刻表に、一部表示を追加した(市から依頼し、越後交通㈱が対応)。	昨年度のグループワークでも意見があったが、青壮年期に限らず、男性の参加が少ないと感じられる。公共交通においても、特に男性は80代、90代になっても自家用車を運転する人が多いため、バスや電車は使わない。一方、自家用車がないと生活できない事情もよくわかるため、免許を返納せずとも、たまには、徒歩や公共交通機関を使って活動する機会を創出できれば、健康づくり、公共交通の確保維持、両面にとってメリットがあるのではないかと考える。
10	人材・働き方政策課	青壮年期の社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上に資する取組みとして、「ながおか働き方プラス応援プロジェクト(通称:はたプラ)」の一環で、社員が生き生きと働ける職場環境づくりに資する内容をテーマに勉強会や企業内研修会の開催等を行っている。また、はたプラ賛同企業向けのメールマガジン等で、健康づくりに関するイベント等の情報提供を行っている。	企業向けの情報発信や勉強会等を通して、一定の企業に対して、従業員の健康維持・向上について意識づけができているものと考えている。
11	南部地域事務所	各分野・世代ごとの現状と取り組むべき課題が明確化されていると思う。	青壮年期の働きざかりは私生活や子育てが忙しい世代でアプローチが難しいことは何年も課題になっているが、この時期の健康づくりが生涯に繋がってくるので、何とかしたい時期。土日の事業の開催や、保育園や小中学校等、コミセン事業等、青壮年期(保護者)と接点が取れそうなところで、アプローチできると良いのではないかと考える。

	所属	1 関連事業の取組や進捗状況等に対する意見および感想	2 健康づくりに関する効果的な取組や課題と感ること
12	北部地域 事務所	<p>複数の部署や団体が、同じような目的・対象・内容の事業を実施している。市全体を俯瞰して見て調整できるとよい。</p> <p>(単純に「重複してるから事業を取り止める」ではなく、実施主体同士が共働して得意分野やマンパワーの活用、アプローチしやすい対象群への働きかけを活かしあう)←特に男性へのアプローチを課題としている団体が多いため、共有の課題を解決する視点で共働できるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者(特に青壮年世代、女性)の意見が取り入れられていないのではないか。 ・企業の健康づくり担当者が事業を利用したくなるようなPR媒体を作るとよいのではないか。 ・事業実施状況についても、商工会の通信などがあれば載せてみるとよいのではないか。
13	栃尾地域 事務所	<p>各所属で、様々な工夫をしながら、事業展開していることが分かった。それら点がどんどんつながっていくと、もっと良くなっていくものと感じた。</p>	<p>青壮年期はもっとも接点の少ない年代のため、園・学校をとりこむ、事業所をとりこむ等しなければ、効果的なアプローチは困難なものと思う。それぞれの所属で他をまきこんで行っているものがあれば、それらと一緒に健康づくり事業を展開できると良いと感じている。</p>